

定住外国人の語りからみた日本語表記方法の提案

岩崎 拓也 (いわさき たくや)

国立国語研究所 研究系 特任助教

(人間文化研究機構 人間文化研究創発センター 人文知コミュニケーター)

?

実際に日本に住む定住外国人は身の回りにある日本語とその表記についてどのように考えているのか。

× □ _

■本研究では

わかりやすい日本語表記とはどのようなものなのかという問題にたいして、定住外国人が日常生活において接触する日本語表記について持っている意識をインタビューから明らかにする。

■定住外国人2名に半構造化インタビュー

- ・中国語母語話者
- ・来日して約1~2年
- ・初級レベル *事前SPOTによる

■SCAT (大谷2008) によってデータを分析

- 語りをコーディング
- テーマ/構成概念に基づき、ストーリー・ラインを作成



調査風景

(左：読み時間測定、右：インタビュー)



●2名の日常生活に日本語がどのように関わっているのか。

●日常生活における日本語使用や、常日頃接触している日本語における表記についてどのように考えているのか。



- ・日本語のアウトプット機会の少なさが日本語能力の低い自己評価に直結している可能性
- ・重要な情報は複数媒体で知らせることで情報の取りこぼしを防ぐことができるという考え
- ・精度が低い翻訳アプリや辞書アプリに頼るために、時間を浪費してしまっているという現状
- ・中国語を母語とする定住外国人にとっては、漢字表記が多いほうが安心という意識
- ・カタカナ表記の外来語においては、対応する英語をルビとして表記するほうが理解の一助になるという意識

謝辞：本研究は、JSPS科研費JP21K13047の助成を受けたものです。

参考文献：

岩崎拓也 (2022) 「定住外国人の語りからみた日本語表記にかんする意識」 『一橋大学国際教育交流センター紀要』 (4) pp.61-69.

岩崎拓也 (2021) 「定住外国人のための日本語表記方法についての予備的考察」 『台湾日本語学会・東呉大学日本語文学科 2021年度台湾日本語学会国際シンポジウムーポストコロナの日本語文学研究一予稿集』 pp.145-152.

大谷尚 (2008) 「4ステップコーディングによる質的データ分析手法SCATの提案ー着しやすく小規模データにも適用可能な理論化の手続きー」 『名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要 (教育科学)』 v.54, n.2, pp.27-44.